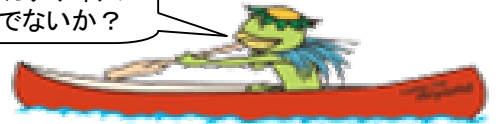


2009 カヤック訓練

2009.7.12

水郷小見川少年自然の家

これは、カナディアンカヌーでないか？



「自分のカヌーは自分で漕げ！」B-Pからの助言

カブ隊は、昨年はカナディアンカヌー。今年の夏キャンプでは、埼玉県の寄居町(玉淀湖)でカヤックに挑戦する。特にウサギスカウトは、今回の訓練で操船をマスターすることが課題なのだ！

【カヌーとカヤックの違い】

我々船乗り(いつからだ?)は、「カヌー(昨年の夏キャンプで使用)」は基本的にオープンデッキでシングルパドルのタイプを指す、「カヤック(今回の訓練で使用)」は基本的にクローズドデッキでダブルパドルのタイプを指すが、広義ではカヌーという言葉の中にカヤックを含める場合が多い。でも「カヤック」と言う呼び名にこだわりたいな。もう一つ、昨年の夏キャンプで使用カヌーは、「カナディアンカヌー」でなく、「インディアンカヌー」と呼ばせたい。

【ライフジャケット(救命胴衣)】

脱げにくいことが重要であるが、自分の体重に見合う浮力ものを選びなくてはならない。水に落ちた場合に、呼吸を確保するためには、頭を水面より上に出しておかなければならないからである。目安は体重のおよそ10%が頭の重さと言われているので、自分の体重の十分の一以上の浮力ものを選ぶ。

カヌー(オープンデッキ)

シングルパドル



カヤック(クローズドデッキ)

ダブルパドル



カヌー一章

ボーイ隊スカウトの、2級スカウト以上であれば、だれでも取得(それなりの努力は必要)することができる技能章に『カヌー一章』があるが、残念ながらデザインはカヤックである。



パワーボート章

今回、M副長は知らないうちに、茨城県連唯一の技能章『パワーボート章』の技能章考査委員になってしまったのだ。でも、船酔いはする。取得したいスカウトは、16歳以上で水泳章を取得し、小型船舶免許を取ってから来るのだぞ！これって結構困難なのだ！



これより、カヤック訓練に向かうぞ！

→→<利根川添いに下り>

→→ 今回は車に酔う者なく無事到着

全員が、濡れても良い服装に着替えて、インストラクター(自称:大食いのタエちゃん)から、安全具である、ライフジャケットとヘルメットの装着の指導を受けます。その後は、フロート(栈橋)に移動して安全な乗船・下船法と操船の基本を教わり「いざ! 出航!」



オレ達も早やくやりたいぞー



ウリヤー!



ライジャケ装着法

ちゃんと着けないと溺れちゃうぞ!



指が2本入るぐらいで良いよ。

首が痛い!

ヘルメット装着法



救出法(水面から持ち上げる)

それっ!

ウエッ!



この隙間に挟まったら危ないよー!



シングル艇



タンデム艇



乗船のヘルプ。



クマスカウトは、シングル(一人乗り)艇に挑戦！



隊長は、なぜか？ガッツポーズ！



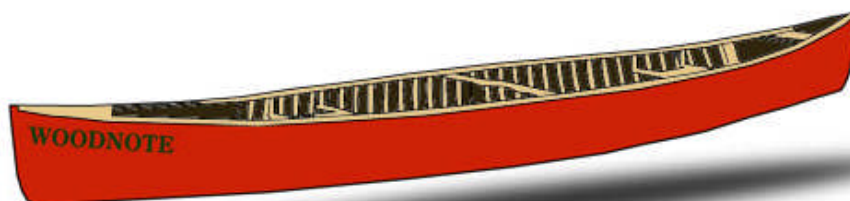
やがて、このスカウトは「カヌー犬」ならぬ「カヤック小僧」に仕込まれるのである。



なかなか、やるようになったなー



シューーーン！



カナディアン(インディアン)カヌー



ウサギスカウトは、リーダーとタンDEM(2人乗り)艇で訓練だ。



小休止。カヤックを上げて、水抜きを行う。「そーれ。そーれ」左右に揺すって水を抜く。

今度は、ウサギスカウトの2人のりに挑戦だ！これを「2馬力ならぬ2兎力」と言う。



どちらもイカダになって小休止中。



艇人



シングル艇イカダを正面から「パシヤッ！」



タンデム2艇で双胴船に挑戦だ！前の2人が艇を固定し、後ろ2名で漕いで進むのだ。



だいぶカマボコいや、板についてきたぞー！



訓練終了。「ありがとうございました。」



体を動かしお腹もペコペコなのだ。カブ弁を美味しくいただきました。でも、なぜ、ふたり遠くにいるのか？



小見川 →→<利根川添いに上り> →→ 無事帰着

今回の訓練の成果は、キャンプの報告を乞うご期待。
カヤックを自分で漕いで川を上らないと昼ご飯が食べられないぞー！
日々、エアカヤックで、練習するのである。

～ これらのページの写真と分はM副長によるものであるが、いまいち作成に力が入らなかった～